

令和3年度 第1回羽黒地域振興懇談会 会議概要

- 1 日時 令和3年7月5日（月）午後3時～午後5時
- 2 場所 羽黒コミュニティセンター 集会室
- 3 出席者 委員 田村廣実委員、勝木正人委員、小林馨委員、堀誠委員、加藤省二委員、丸山典由喜委員、榎本トヨ委員、中川恵美委員、百瀬清昭委員、山本興治委員、小南孝子委員、三浦美津子委員、上林武子委員
庁舎 支所長 伊藤義明、市民福祉課長 佐藤美香、産業建設課長 秋葉敏郎
総務企画課主幹 観世安司、総務企画課主査 藤澤弘子、総務企画課主事 三浦耀介
本所 企画部長 伊藤敦、地域振興課長 伊藤慶也、地域振興課地域振興専門員 熊田晃久
- 4 会議次第
(委嘱状交付)
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ 羽黒庁舎支所長 伊藤義明
 - (3) 自己紹介
 - (4) 会長、副会長の選出
 - (5) 意見交換
 - ① 鶴岡市過疎計画の策定について
 - ② 羽黒地域の振興について
 - (6) その他
 - (7) 閉会
- 5 会議資料
 - ・【概要】鶴岡市過疎地域持続的発展計画（素案）
 - ・【参考】羽黒地域
 - ・【参考】人口の推移について
 - ・鶴岡市過疎地域持続的発展計画（素案）
 - ・【資料1】令和3年度羽黒地域関連投資的事業（地域まちづくり未来事業を除く）
 - ・【資料2】令和3年度羽黒地域まちづくり未来事業について
- 6 意見交換会の要旨
 - ①鶴岡市過疎計画の策定について（地域振興課長 説明）
 - ②羽黒地域の振興について（羽黒庁舎総務企画課主幹 説明）
～議題①・②を一括で説明～

【委員】

・昨年は長年の課題だった羽黒山バイパスの開通、今年は門前町のポケットパークが完成と大変ありがとうございました。地域の住民としてお礼を申し上げます。

・計画については、人口減少等の課題を網羅しており、素晴らしい計画だと思います。ぜひこの計画を実践していただきたいと思います。先日、山形新聞で「全国住みやすさランキング」を見ました。1位が東根市、2位が天童市、3位が新庄市で、鶴岡市は県内12位という結果でした。ぜひ、この評価についても計画の参考にしたら良いのではないのでしょうか。

【委員】

・この計画を実行していくことが大事で、絵に描いた餅にならないように頑張りたいと思いますし、その一翼になれるように頑張りたいと思っています。

・まちづくり未来事業を拝見すると、ほとんどが観光に関連するような事業だと感じました。行政の事業でいつも思うのが、例えば7番の出羽三山丑年御縁年誘客対策事業と8番の松ヶ岡開墾150年記念事業を、それぞれ単独の事業としてではなく、計画をする段階でうまく結びつけられないのかなと思います。もっと柔軟に事業を連携して考えてみてはどうかと思いました。

【委員】

・すごく心を痛めているのが、冬の除雪の関係です。一人暮らしの高齢者や、高齢者だけの世帯、母子世帯など、人の力を借りないと住んでいるところの除雪もできない、玄関から道路までの除雪もままならないといった実態があり、国民年金で生活している高齢者が、1回の除雪に10万円もかかっているといった事例も聞いております。

鶴岡市民生児童委員協議会でも、会長名で市長宛に助成金に関する要望書を提出するというのでしたので、ぜひ住みやすい環境づくりという点で、力を入れて取り組んでいただきたいと思っています。

【委員】

・商工会の立場として、商業・まちなみが活性化していない状況で、商店の方々が大変苦慮しているところがございます。その点についても取り入れていただければと思います。概要を見ますと、様々な支援が載っていますので更に深めていただきたいと思っています。

・人口は鶴岡市全体が減少しているわけで、旧市町村から鶴岡市内に住宅が移動しているような傾向もありますので、過疎だから恩恵があるのではなく、持続・自立できる市であることが大事だと思います。前回も話になりましたが、私は集落は小さければ小さいほど活性化できると思っています。広域になれば様々な弊害が出てきますし、小さいところが活性化されれば、コミュニティ活動がスムーズになるのではないかと思います。

【委員】

・現在羽黒地域は69集落あり集落を形成するうえで、市から総合交付金という制度をいただいております。しかし、中には自治組織の体系を成していない集落も存在し、そこには総合交付金は交付されて

いないという実態がございます。前から思っていたことですが、集落の統廃合をぜひやるべきだと思っております。

・自主防災組織について、鶴岡市全体で 99.9%の組織率となっており大変喜ばしいことですが、それは名ばかりで、訓練もやっていない、組織体系も成されていないところがほとんどではないかと思えます。1年に1回は自主防災訓練を実施し、日頃からの心構えが大切で、自主防災組織の在り方を考える必要があると思えます。

【委員】

・現在はコロナ禍でもあり、鶴岡に住みながら東京の会社とオンラインで業務をすることもあります。
・都会からくる人は、土地や家が必要だと思うのですが、空地や空き家を新しく活用し、提供する等の施策も必要だと思います。また、新しく農業を始めたいという人も結構いて、新規就農者に対して補助金があるようですが、元手になるお金がないと農業は出来ないと思えます。収穫して販売して軌道に乗るまでの資金確保や手助けを2年～3年は必要だと感じました。
・上野新田では、高齢者が多いのですが、自分たちの身は自分たちで守るために、スマホ教室や心肺蘇生等の応急処置を習うなどの案が出ました。自分たちで住みやすい町にしていくのが大切なのではないかと思っております。

【委員】

・人口減少をいかに食い止めるかは大きな問題で、人口をどうしたら増やせるのかは簡単に思い浮かばないし、日本全体として減少しているので、どこかで増やそうというパイの奪い合いになってしまってもだめだと思います。人口が少なければ少ないなりに、活力ある楽しい地域づくりが大切で、未来に向けた事業の取り組みが重要だと思います。
・地域まちづくり未来事業で、松ヶ岡 150 年記念事業につきましては、地域の皆さんからご協力をいただいております。その中で集落でも未来に向けた事業として、若い人中心に考えていて、子どもや若い人達と一緒に取組んでいけるような事業を考えています。

【委員】

・昨年度はコロナの影響で実施できませんでしたが、広瀬小学校の4年・5年・6年生を対象に家庭料理を作る料理クラブを実施しております。子供たちには、昔ながらの味に親しみを持ってもらえるように、コロナが落ち着いたら再開したいと考えております。また、広瀬小学校だけでなく、羽黒全体での学校の取り組みになれば良いと思っております。
・泉地区地域活動センターのボイラーが壊れていて大変困っています。
・健康面では、ぜひご自身の健康を考えて、塩分の摂取（味の濃い食べ物）を控えていただければと思います。丈夫でなければ、地域の活性化に繋がらないと思いますので、運動と食生活を考えてほしいと思います。
・住んでいる地区の防災対策について、現在は河川改修も済み、安心してはいるのですが、より今後の対策について考えていかなければいけないと思いました。

【委員】

・空き家が増えてきていることに加え、年数が経過すると危険な状態になることに心配しております。所有者は分かるのですが、お金が掛かるということから、すぐに対応できないことは承知しております。羽黒地域全体を考えても、行き当たりばったりの対応では、事故に繋がる可能性もあり、何かあってからでは遅いと思いますので、行政の方で把握して対応してもらいたいと思います。

・鳥獣被害については、近年羽黒地域のみならず、全市において発生が増えており、去年の12月には市内で豚熱が発生しました。豚熱が発生すると、かなりの労力と近隣住民への心配が伴います。また、養豚業の方々の生活に深刻な被害を与えてしまいます。この件については猟友会だけではなく、いろんな角度で全市的に考えないと厳しいと考えております。

・猟友会への補助金について、免許取得時だけではなく、継続時についても考えていただきたいと思っています。

【委員】

・平成17年の合併に伴い、コンパクトシティという路線に乗せられた気がしています。その影響で私の地区では小学校がなくなりました。過疎計画についても、歯止めにはならないと感じています。

・計画については、絵にかいた餅の部分があると思いました。例えば97ページ「避難所の機能強化」ですが、自治会にも家庭用の自家発電機が3台あります。しかし、非常時に必要な消費電力が大きくて対応できません。避難所においても、学校等に設置しているディーゼル式の発電機が必要だと思います。

・防災の視点を、計画に取り入れた方がいいと思いました。特に旧鶴岡市内の方は、連絡の方法がないので困るのではないかと思います。鶴岡は災害の少ないところだと言わないで、過疎の計画の中でぜひ防災の視点についても入れていただきたいと思います。

・交通手段についてですが、庄内交通の路線が減っている中、免許返納といわれても対応できない状態が続くと思います。非常に困る問題なので、計画に取り入れていただければと思います。

・弱者の視点についても計画に取り入れてほしいと思います。(後期高齢者など)

【委員】

・学校行事で、校外学習や料理教室などで地域に小学生が行かせていただいて、非常にありがたいと思っております。私自身は羽黒に移住してきたのですが、羽黒は住みやすくて来てよかったと思いました。

・子育てをする中で、共稼ぎで両親もいないため、手伝ってくれる人が近くにいないことが大変でした。羽黒地域でも核家族が多いと思いますので、病児保育等できる場所や支援があれば助かると思います。

・広瀬小学校ではコロナ禍により、夏休み期間中プールがなくなり、遊ぶ場所もないので、子ども達は自宅で留守番をしています。(遊具も古くてなかなか遊べない) 自転車で遊びに行けるような公園等の整備をしていただけるとありがたいと思います。

・広瀬地区の自治振興会では、夏休みの平日に勉強会を開いていただいて、役員の方や帰省中の大学生が勉強を教えてくださいました。(今年も計画しているとのこと) 家族以外の人と触れ合う機会がもっと広がっていくと嬉しいなと思います。

【委員】

- ・蝦夷館公園の八重桜とチューリップ畑に感動しました。資料2でイベント開催と書いてありますが、どのようなことを予定しているのでしょうか。
- ・十文字等の道路島の花について、継続的な花植えにならないものかなと思っております。
- ・羽黒に商店が少ないのはなぜかと思えます。先日テレビのロケで藤島が取り上げられていて、産直や商店を2日間取材していたようです。羽黒の場合、紹介できるものはあるのかと思っていました。
- ・ここにこバスの路線についてですが、だいぶ前にアンケートを取った際に「お医者さんの前を通ったらどうか？」と回答した覚えがあります。ゆぼかには毎回停まるので、ゆぼかに行く人はかなり利用していると思うのですが、医療機関の利用についてはどうなっているのでしょうか。

【委員】

- ・今日の火災の際、防災行政無線が聞こえにくくて、消防に電話したという人がいました。河北町で防災無線が聞こえるラジオを全戸に配布したと何かで見たのですが、鶴岡市でも考えてはいないのでしょうか。櫛引と朝日にはケーブルテレビがあるのですが、羽黒や藤島にはないので、防災情報が聞けるラジオがあればいいと思いました。

【委員】

- ・集落の統廃合には賛成なのですが、実際に対応可能なのか、方針等はあるのかお聞きしたいです。
- ・観光看板の設置事業については、ぜひ観光協会と連携をとって相談しながら対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

事務局より回答

【回答：地域振興課長 伊藤慶也】

住みよさランキングについては、移住定住の担当をしている関係で資料は確認しておりました。これについては、東洋経済社さんが安心度・利便度・快適度・富裕度の4つの視点と20の指標を用いて毎年評価しているものです。評価指標のとらえ方が様々ありまして、これだけで判断するのはなかなか難しいと思えますが、参考にさせていただいております。

空き家対策、鳥獣被害、健康問題、防災対策については、大変大事なことだと思えます。それぞれ市役所の中に担当課がございますので、いただいた意見については担当課に伝えながら、内容について精査して参りたいと思えます。

計画については、鶴岡市総合計画からピックアップしておりまして、大きな基本計画のような形であったかと思えます。これをいかに具体化して事業に取り組んでいくかということが、ご指摘をいただいた通り大変重要だと思えます。皆様と共に実践に向けて取り組んで参りたいと思えますし、この度の計画からは毎年評価検証していくようになっております。その点から更にブラッシュアップしていければと思っております。

集落対策として、それぞれの自治のあり方が様々ありますが、市役所の方で統合等を強制することはできないものと思っております。事例を紹介させていただきますが、温海地域にはかつて29の集落がありましたが、集落維持が難しくなったところについては、隣接する集落と統合したというケースが2件ございまして、現在は27集落になっております。これは、集落を維持するための人員が不足し

ていること、生活環境の維持が単独の集落では難しいこと等からの判断でしたが、その際に問題になったのが財産についてでした。そこをクリアできれば、羽黒地域においても、お互いが納得する協議を重ねていけば統合という道もあるのではないかと思います。

お店が無くなった、交通手段が無い等の問題について、事例として朝日の大網地区では5つの集落で「小さな拠点づくり」として取り組んで参りました。これは、協同して、買い物支援や移動手段の確保など、生活する上で必要な機能をみんなで考えて仕組みを作っていく取り組みでございます。また、同じ様な取り組みが、温海の福栄地区で行っておりまして、移動販売の誘致について単独では難しかったのですが、5つの集落が連携して誘致することができました。（現在は週3回来ている）

このように、統合までに至らなくても隣接する集落と相談しながら連携して取り組む解決策もあるのではないかと考えております。

【回答：産業建設課長 秋葉敏郎】

蝦夷館公園のイベントにつきましては、ツリーイング体験会や綱渡りといったイベントを開催し、子ども達を中心に参加を募り、市の広報にも掲載し市外からの参加も募集しました。

花いっぱい運動について、十文字の交通島につきましては、6月第2週の土曜日の早朝に60人～70人で花植えを行いました。昨年も同様に実施しておりまして、植えた花については、秋頃まで咲いていたと感じております。また、何かもっと良い手法等があれば教えていただければと思います。手向地区につきましては、それぞれの集落にプランターづくりをお願いしまして、実施している状況となっております。

【回答：羽黒支所長 伊藤義明】

にこにこバスの件につきまして、以前、利便性等についてのアンケートを取らせていただき、「荘内病院等を利用しやすいようになればいいな」といったご意見をいただいたところでございます。にこにこバスは市営バスですが、庄内交通と競合する部分もたくさんありまして、荘内病院を経由する路線について庄内交通と協議したところ、その点について了承はもらえなかった経過がございます。市といたしましても、荘内病院を経由できるような路線になれば利用者も増えるかと思っておりますので、今後更に調整を行いながら進めていきたいと思っております。

【回答：総務企画課主幹 観世安司】

防災無線、ラジオにつきまして、櫛引・朝日にはケーブルテレビがあり、羽黒にも以前は戸別受信機があったわけですが、現在は無い状態であります。現在は、事業費や効果等を含め、戸別受信機が良いのか、ラジオが良いのか、あるいは別の情報手段が良いのかを、全市的に調査検討しております。

集落の統廃合につきまして、現在羽黒庁舎として行政が主導した形での具体的な方針等は持っておりませんが、集落から相談があれば考えていかなければいけないと思っております。

委員より質問・意見

【委員】

・過疎地域持続的発展計画や総合計画、防災計画など様々ある訳ですが、計画を策定して終わりではなく、住民にお知らせするためにダイジェスト版などを配布することはできないのか。

・市長日程で、7月8日に櫛引の地域振興懇談会に参加するとあったが、羽黒の方でも市長の日程を調整して、この会を実施するべきだったのではないのでしょうか。

事務局より回答

【回答：地域振興課長 伊藤慶也】

ご指摘のとおり市では様々な計画を策定しております。それらは法律に基づいて策定を義務付けられているものもあれば、各自治体が独自に必要と考えて取り組んでいるもの等がございます。この過疎計画につきましては、法に基づいて策定し国からの様々な支援が得られるというもので意義のあるものと考えております。なおこの計画については、素案や概要版をパブリックコメント等に付し、最終的に計画がまとまりましたら、ホームページ等に掲載したいと考えております。また、広報を活用し特集を組んで周知を図って参りたいと思います。

【回答：羽黒庁舎支所長 伊藤義明】

これまで地域振興懇談会につきましては、どの地域も市長に参加していただいております。今回の櫛引への参加につきましては、たまたま市長の日程が合った事と櫛引固有の用務があつて、参加されるのではないかと推測しているところでございます。

委員より質問・意見

【委員】

- ・7月号の山形県民のあゆみに羽黒山と松ヶ岡の資源と文化について掲載されておりました。ソフト事業として、地域の資源と文化について勉強する機会（勉強会）を検討してみたいかと思いますが。
- ・集落の整備については、コミュニティの強化が重要だと思います。また、様々な組織や団体を地域コミュニティに参加させるような策を講じていけば、更に発展していくと思います。

【委員】

- ・今日、会議に参加して女性委員が増えて嬉しかったです。ありがとうございます。
- ・中川委員が発言していたように、子育て支援をきっちりすると、子どもが育てやすいところには若い人がついてくると思います。若い人を中心に子育てしやすい環境を作ってあげることが大切だと感じました。

【百瀬会長】

- ・集落のみんなが自分のこととして考え、将来の地域をどうしていきたいのか意見交換が大事だと思いました。また、ワークショップやビジョン策定など、集落単位で取り組んで、若い人達を巻き込んで実施していくことが重要だと思います。
- ・八幡地区に定住した地域おこし協力隊のような人が、地域に入れば良い刺激になると思います。
- ・様々な事業の前に、地域での意見交換を活発に行うことをお願いしたいと思います。